

令和 5 年度事業計画書

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)

公益財団法人吉田学術教育振興会

I 基本方針

当財団は、設立以来、福岡県下で科学技術の先進的かつ着想が斬新な研究に取り組む新進気鋭の研究者への学術奨励金の給付、児童・生徒の学ぶ力の向上と豊かな人間性を育む教育に取り組む学校への教育振興助成金の給付や図書の寄贈、さらに学生・生徒の就学機会を確保し、健全な育成を図るための奨学金の給付等、学術教育振興等の分野で様々な助成活動に取り組んできた。令和 5 年度についても従前の基本方針を堅持することとする。

さて、当財団の資金運用環境について、昨年は、ウクライナ侵攻に端を発したエネルギー問題、インフレ高進をはじめ、記録的な円安、中国経済の減速、台湾有事の懸念等、2022 年に噴出した地政学上のリスクは各国の政治経済に重くのしかかり、影響を与えてきた。

日本においてもエネルギー問題や半導体不足による生産減、また資源高と円安による経済活動の停滞感が強く、2022 年の経済成長率は低下する見通しとなっていた。

一方、2023 年の日本の経済成長率は、前年比+1%台半ばの回復が見込まれている。

背景としては、新型コロナ対策の緩和による国内消費、インバウンド需要、また製造業の生産回復等があげられている。

為替相場は、2022 年初頭に 115 円前後だったが、2022 年 10 月には一時 1 ドル=151 円台と約 32 年ぶりの円安水準になった。

2023 年 2 月には 130 円前後で推移しており、2023 年の平均的な水準としては、125 円前後が見込まれている。

日本の株式市場は、世界経済の減速を受け、2023 年の前半はレンジ相場が続くものの、後半からは企業業績の回復とともに株式相場は回復に向かい、日経平均株価も上昇が予想されるなど、日本の株式市場はプラスの動きが見込まれている。

この様な状況であるが、昨年の当財団の資金運用環境を振り返ると、為替差益により、保有する米ドル、豪ドル等の債権は予算以上の収益を上げている。また、今年度も株・債権ともに一定の収益を確保できる環境にあるものと見通している。

前述の資金運用環境を踏まえ、事業規模については、令和 4 年度の事業計画から若干ではあるが予算を増やし（奨学金等給付事業）、令和 5 年度の事業計画を策定した。

II 事業の実施計画

1 学術奨励事業

福岡県内の大学、高専等の研究機関に在籍し、科学技術的にも高度で水準が高く、かつ、近未来において社会の豊かさと向上に大きな貢献が期待されるテーマに取り組んでいる理工系の研究者に対し、令和 5 年度は前年と同額の総額 1 千万円の予算を計上して学術奨励金を交付し、これを助成する。

交付は 5 名以内とし、募集、選考、交付の方法、交付時期等については、当財団の規定に従って実施する。

なお、助成による研究の進展・成果の状況等については、1 年後を目途に報告をいただくほか、研究が終了し実用化され一定の成果が挙げたものについては、その時点を目途にレポートを送付していただくことを募集の条件とし、助成の効果を把握することとする。

2 教育振興助成事業

(1) 資・器材の購入資金の交付

福岡県内の公立の小・中学校で、理科の授業又は総合学習の時間を利用して特色ある学習活動を展開している学校に対し、また、公立の高校で、特色ある自然科学・社会科学等の学習活動を行い、又は生徒に対し特色ある進路指導・職業教育等を行っている学校に対し、その効果をより高める上で不可欠な教材等の購入資金として、令和 5 年度は総額 660 万円の予算を計上して教育振興助成金を交付し、これを助成する。

交付は、令和 4 年度の理事会や選考委員会で頂いたご意見（多くの学校に寄贈する）を踏まえ、これまでの 55 万円（消費税込み）から 33 万円（消費税込み）へ見直し、寄贈校を 12 校程度から 20 校程度とする。

募集、選考、交付の方法、交付時期等については、当財団の規定に従って実施する。

(2) 外国人留学生への里親奨学金の給付

県内の国・公立大学の理工系学部等に在籍し、経済的な理由から就学の継続が困難な外国人留学生に対し、総額 48 万円の予算を計上し、里親奨学金を給付する。

給付は、公益財団法人福岡県国際交流センターの里親奨学金制度を通して、2 名に給付し、募集、選考、給付の方法、給付時期等については、当財団及び同センターの規定に従って実施する。

(3) その他の振興助成金の交付

県民の教育・文化・健康増進等を目的とし、有意義で特色ある啓発活動を進める福岡県内の団体に対し、総額 110 万円の予算を計上して振興助成金を交付し、その推進を助成する。

交付は、1 件当たり 55 万円を上限とし、募集、選考、交付の方法、交付時期等については、当財団の規定に従って実施する。

なお、振興助成金への応募が少ない状況にある為、地域の教育関係団体等に対し、

振興助成金等の周知活動を実施する。

3 奨学金等給付事業

(1) 奨学金の給付

福岡県内に居住し、学力・人物ともに優秀でありながら、経済的な理由から就学の継続が困難な高校、高専、大学生に対し、令和 5 年度は令和 4 年度予算より 126 万円多い総額 1,584 万円の予算を計上し、奨学金を給付する。

給付人数は、これまでの高校生 48 名程度（うち定時制 4 名程度とする。）から高校生 55 名程度（うち定時制 4 名程度とする。）とし、7 名増の計画とした。

高専生 12 名程度、大学生 8 名程度は現状維持とし、令和 4 年度予算の合計 68 名程度から 7 名増やし、令和 5 年度は合計 75 名程度の予算人数とし、募集、選考、給付の方法、給付時期等については、当財団の規定に従って実施する。

(2) 入学支度金の給付

学力・人物ともに優秀でありながら経済的な理由から大学進学が困難な福岡県内の高等学校の生徒に対し、九州及び山口県内の国・公立大学進学を条件に、入学金に充当するため総額 150 万円の予算を計上し、入学支度金を給付する。

給付は、5 名程度とし、募集、選考、給付の方法、給付時期等については、当財団の規定に従って実施する。

また、学力・人物ともに優秀でありながら経済的な理由から高校進学が困難な福岡県内の公立の中学校の生徒に対し、福岡県内の公立高校又は工業高等専門学校進学を条件に、新入学用品購入費等に充当するため総額を 100 万円から 120 万円に増やした予算を計上し、入学支度金を給付する。

給付を 20 名程度から 24 名程度とし、募集、選考、給付の方法、給付時期等については、当財団の規定に従って実施する。

4 図書寄贈事業

福岡県内の小・中学校で、理科学的な関心を高め、また豊かな心を身につける基礎的な力を育む図書の充実を図っている学校に対し、また、高校については前記した他、人格の涵養を図る等の目的をもって図書の充実を図っている学校に対し、総額 330 万円の予算を計上してこれにふさわしい図書を寄贈する。

寄贈は、原則として 30 校以内とし、募集、選考、寄贈の方法、寄贈の時期等については、当財団の規定に従って実施する。